

授業科目	基礎看護学 原論	単 位	1単位	時 間 数	30時間	講 義 時 期	1年次前期	担当 者	栞原 和恵
								職 種	副校長
授業の目 標・ねら い	看護の概念を捉え、保健医療福祉の中での看護の役割と責務、専門性について学ぶ。 1. 看護の変遷を通して看護の概念、看護の役割を理解する。 2. 健康の概念を広く捉えて理解する。 3. 看護の対象である人間の特徴と、生活者としての人間を理解する。 4. 看護の機能と役割について理解する。								
授業内容 および方 法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	看護学を学ぶ姿勢・看護の定義				講義	栞原	
		2	看護とは何か				講義	栞原	
		3	看護の歴史的変遷、職業としての看護の確立				講義	栞原	
		4	看護の対象である人間について				講義	栞原	
		5	健康とは何か				講義	栞原	
		6	国民の健康について統計から理解する				講義	栞原	
		7	看護実践のための理論的根拠について				講義	栞原	
		8	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク1				講義・GW	栞原	
		9	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク2				講義・GW	栞原	
		10	グループ発表1				講義	栞原	
		11	グループ発表2				講義	栞原	
		12	看護における倫理について				講義	栞原	
		13	医療安全と医療の質保証について				講義	栞原	
		14	看護をめぐる制度と政策について				講義	栞原	
		15	試験、まとめ					栞原	
	単元ごとは順不同です。								
評価方法	筆記試験 レポート								
履修上の 注意	グループワークは主体的に取り組んでください 使用するテキストは事前に指示します								
テキスト	系統看護学講座1「看護基礎学 看護学概論」 医学書院 長谷川浩・藤枝知子訳「トラベルビー 人間対人間の看護」 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版 湯楨ます他訳「ナイチンゲール 看護覚え書 看護であること看護でないこと」 現代社 城ヶ端初子著「誰でも分かる看護理論」 サイオ出版 田村やよひ著「私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法」 日本看護協会出版会 東京医科大学看護専門学校編「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社								
参考図書									

授業科目	基礎看護技術Ⅰ-1	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	増田 幸子	
								職種	専任教員	
授業の目標・ねらい	<p>共通する看護技術とはすべての看護行動に共通する基礎的な行為としての技術である。具体的には、バイタルサイン・観察・記録・報告・フィジカルアセスメントの技術をいう。</p> <p>1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>1) フィジカルイグザミネーションに関する基礎知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>2) 観察の視点と必要性を学ぶとともに、記録の書き方・記載する内容・報告に関する基礎知識的・技術・態度を学ぶ。</p> <p>3) 健康障害を持つ対象を多角的に理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	バイタル	1	バイタルサインとは、観察の必要性				講義	増田		
		2	意識・体温				講義・演習	増田		
		3	脈拍・呼吸				講義・演習	増田		
		4	血圧①				講義・演習	増田		
		5	血圧②				講義・演習	増田		
		6	バイタルサイン測定の実際				講義・演習	増田		
		7	観察したことの記録・報告				講義	増田		
		8	バイタルサイン測定の演習				演習	増田		
	フィジカル	9	フィジカルアセスメントの概要				講義	増田		
		10	フィジカルアセスメントの構成要素 身体測定				講義・演習	増田		
		11	呼吸器のフィジカルアセスメント				講義	増田		
		12	循環器のフィジカルアセスメント				講義	増田		
		13	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメント演習				演習	増田		
		14	腹部・骨格・筋・神経系のフィジカルアセスメント				講義・演習	増田		
15		試験					増田			
評価方法	筆記試験および講義中の課題提出により総合的に評価する。									
履修上の注意	演習は十分な練習をして臨んでください。									
テキスト	有田清子他著「系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」医学書院 山内豊明著「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院 日野原重明監修「系統看護学講座 解剖生理学」医学書院 小田正枝「症状別看護過程」照林社									
参考図書	横山美樹「初めてのフィジカルアセスメント」メディカ出版 日野原重明著「フィジカルアセスメント」医学書院 日野原重明監修「バイタルサインの見方・読み方」照林社 岡安大仁著「ナースのための聴診スキルの教室」Gakken 藤野智子監修「基礎と臨床がつながるバイタルサイン」Gakken 一柳陽子他著「看護学生のためのバイタルサインよくわかるBOOK」メヂカルフレンド社 村上美好著「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント」 インターメディカ聖マリアンナ医科大学看護部編集「みるみる身につくバイタルサイン」照林社									

授業科目	基礎看護技術 I-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	塚田 佳代美
								職種	専任教員
授業の目標・ねらい	<p>共通する看護技術とはすべての看護行動に共通する基礎的な行為としての技術である 具体的には、コミュニケーション、学習支援技術、安全・感染予防の技術をいう。</p> <p>1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 1) コミュニケーションに関する基礎知識・技術・態度を学ぶ。 2) コミュニケーション技術を高めるための方法を理解し、活用できる能力を養う。 3) 対象が安全に診療を受けられるように、安全・感染予防に関する基礎知識・技術・態度を学ぶ。 4) 学習支援における看護の役割を理解し、対象のセルフケア能力の向上を支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。 5) 演習を通して、事例に対する学習支援計画書の作成ができる。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	コミュニケーション	1	コミュニケーションの意味と目的 看護・医療におけるコミュニケーション				講義	塚田	
		2	関係構築のためのコミュニケーションの基本				講義	塚田	
		3	効果的なコミュニケーションの実際、プロセスレコードとは何か				講義	塚田	
		4	プロセスレコードの振り返り、ロールプレイング				講義、演習	塚田	
		5	プロセスレコードの評価・活用				GW講義	塚田	
	安全・感染	6	感染の基礎知識、感染の脅威、感染予防に対する看護師の役割				講義・GW	塚田	
		7	手洗いの実際、個人防護用具の使用方法、経路別予防策				講義・演習	塚田	
		8	洗浄・消毒・滅菌、滅菌物の取り扱い				講義	塚田	
		9	個人防護用具の着脱、滅菌物の取り扱いと滅菌操作				演習	塚田	
		10	安全管理				講義	塚田	
	学習支援	11	患者教育・指導から学習支援へ				講義	塚田	
		12	学習支援の意義と健康状態の変化に伴う学習支援				講義	塚田	
		13	事例に基づいて学習支援のテーマ目標、必要な教材検討				講義・GW	塚田	
		14	目標から必要な支援内容を検討し、資料作成				講義・GW	塚田	
		15	指導計画書を用いて、ロールプレイ				発表	塚田	
単元ごととは順不同です。									
評価方法	筆記試験、演習および講義中の課題提出により総合的に評価する。								
履修上の注意	安全・感染の授業を履修するにあたり、テキスト巻末の動画【W感染防止】QRコードを読み込んで事前学習をして臨むこと								
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」「基礎看護技術 II」 医学書院 村上美好著 「写真でわかる基礎看護技術②」 インターメディカ								
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・川野雅資・大谷佳子: 会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術 中央法規 ・福沢周亮・桜井俊子: 看護コミュニケーション 基礎知識と実際 教育出版 ・太湯好子: 患者の心に寄り添う聞き方、話し方 メヂカルフレンド社 ・仁木久恵訳: 患者との非言語的コミュニケーション 医学書院 ・長谷川雅美: 自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード 日総研 ・坂本恵子: 看護実践に活かすプロセスレコード HIROKAWA 								

授業科目	看護技術Ⅱ-1 日常生活の自立を支える看護技術 生活環境 日常生活行動	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	大澤 恵実子 赤堀 夏海
								職種	専任教員
授業の目標・ねらい	<p>日常生活の自立を支える看護技術とは看護の対象となる人の生活の自立を支えるための技術である。具体的には、体位変換・移動・移送などの日常生活行動や生活環境を整える技術をいう。</p> <p>1.対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>1)活動・休息の意義・効果を知り、安全・安楽を提供できる技術を学ぶ。</p> <p>2)健康生活における生活環境の保持、意義を知り、日常生活行動において人間の生活を高め看護援助ができる。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	小春さんの就床環境に目を向けてみよう シーツの畳み方				講義・GW	大澤	
		2	環境の概念、諸要素とその調整 シーツの敷きかた				講義	大澤	
		3	病院訪問実習課題 自分が入院したらどのような環境で生活したいか				講義・GW	大澤	
		4	病院訪問実習準備 課題確認・打ち合わせ				講義・GW	大澤	
		5	病院訪問実習後 それぞれの病棟で学んだことや環境の特徴を共有する				講義・GW	大澤	
		6	ベッドメイキング演習				演習	大澤	
		7	活動を援助する 良い姿勢とは ボディメカニクスのポイント				講義	赤堀	
		8	日常生活行動 体位変換のテクニック 側臥位				講義	赤堀	
		9	日常生活行動 体位変換のテクニック 水平移動 臥位・長座位・端座位 体圧について(背抜き)				講義	赤堀	
		10	日常生活行動 車椅子からベッドへ戻る方法 引き上げ 腹臥位				講義	赤堀	
		11	日常生活行動 車椅子移乗・移動の仕方 ストレッチャー移乗・移動の仕方 スライディングシート使用法				講義	赤堀	
		12	睡眠・休息 ポジショニングについて				講義	赤堀	
		13	日常生活行動 スライディングボードを使った車椅子移乗 スライディンググローブを使った背抜きなどの褥瘡対策				講義	赤堀	
		14	筆記試験 技術練習				講義	大澤・赤堀	
		15	基礎看護技術試験				技術実習	松田・今井	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験90点 基礎看護技術試験10点								
履修上の注意	基礎看護技術試験に関しては、別途の要綱をお渡しします。また日常生活行動と生活環境とは別に試験を設けますので間違えないようにしてください。								
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修「写真でわかる基礎看護技術」インターメディカ 本庄恵子監修「写真でわかる臨床看護技術①」インターメディカ 本庄恵子監修「写真でわかる臨床看護技術②」インターメディカ								
参考図書	ヴァクター・スクルトコヴィチ編「看護覚え書決定版」医学書院(入学前購入のもの) ヴァージニア・ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」現代社 山内豊明著「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院								

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	徳山 今日子 松田 千春	
								職種	専任教員	
授業の目標・ねらい	<p>生活の自立を支えるための技術である。 具体的には、衣生活や清潔や排泄を整える看護技術をいう。 1.対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 1)健康生活における清潔の保持、意義を知り、日常生活において人間の生活の質を高める援助技術を学ぶ。 2)健康生活における排泄の意義を知り、排泄の援助に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	衣生活・清潔	1	健康生活における清潔の意義				講義	徳山		
		2	足浴の援助 口腔ケアの援助				講義	徳山		
		3	洗髪の意義・援助方法				講義	徳山		
		4	足浴の実際				演習	徳山		
		5	洗髪の実際				演習	徳山		
		6	全身清拭の意義・援助方法				講義	徳山		
		7	衣生活の援助				講義	徳山		
		8	全身清拭・寝衣交換実際				演習	徳山		
		9	全身清拭・寝衣交換の実際				演習	徳山		
	排泄	10	排泄の意義、排尿のメカニズム、排尿障害のある患者の看護				講義	松田		
		11	排便のメカニズム、排便障害のある患者の看護				講義	松田		
		12	自然排尿・自然排便の介助の方法				講義・演習	松田		
		13	おむつによる排泄援助(陰部洗浄とおむつ交換の方法)				講義・演習	松田		
		14	陰部洗浄とおむつ交換(技術チェック)				演習	松田		
		15	陰部洗浄演習の振り返り				講義・演習	松田		
単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験・実技試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断する。									
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・演習日は授業開始時に明示するが、演習日が多いために体調管理をし受講できるように調整してください。 ・演習日にそなえて、技術練習を重ねた上で臨んで下さい。 									
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修「写真でわかる基礎看護技術」インターメディカ									
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見る看護手順」学習研究社 岡崎美智子編「看護技術実習ガイド①基礎看護技術ーその手順と根拠-第2版」メヂカルフレンド社 坂本恵子編「看護教育と看護実践に役立つ行動形成プログラム」廣川書店 平田雅子著「ベットサイドを科学する 看護に生かす物理学」学習研究社 川島みどり著「目でみる患者援助の基本」医学 ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 ナイチンゲール著「看護覚え書」現代社 医療情報科学研究所編「看護がみえるvol.1」基礎看護技術 メディックメディア 小林 小百合編「根拠と写真で学ぶ看護技術1生活行動を支える援助」中央法規 任 和子編「基礎・臨床看護技術」医学書院 村中 陽子編「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版株式会社 酒井郁子編 リハビリテーション看護 南江堂									

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-3	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	松田 千春
								職種	専任教員
授業の目標・ねらい	<p>日常生活の自立を支える看護技術とは、看護師の判断が中心となって実施し、看護の対象となる人の生活の自立を支えるための技術である。</p> <p>具体的には、食事や排泄を整える看護技術をいう。</p> <p>1.対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>1)健康生活における食事の意義を知り、日常生活において人間の生活の質を高める援助技術を学ぶ。</p> <p>2)健康生活における排泄の意義を知り、自然排泄ができない時の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	栄養と食事	1	食事の意義、日本における現代の食生活と厚生労働省の指針				GW・講義	松田	
		2	ヘンダーソンの飲食に関する基本概念と観察・アセスメントの視点				GW・講義	松田	
		3	健康障害と食生活				講義	松田	
		4	食事摂取の援助				演習	松田	
		5	摂食・嚥下障害のある患者の看護				講義	松田	
		6	非経口栄養法				講義	松田	
		7	経鼻胃管栄養法の演習				演習	松田	
	排泄を支える援助 (導尿 ・ 浣腸	8	浣腸の意義				講義	松田	
		9	浣腸の基礎知識と援助方法				講義・演習	松田	
		10	浣腸の実際				演習	松田	
		11	一時的導尿について				講義・演習	松田	
		12	一時的導尿の実際				講義・演習	松田	
		13	一時的導尿の実際				演習	松田	
		14	一時的導尿演習の振り返りと持続的導尿について				講義	松田	
15		試験					松田		
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断する。								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・演習日は授業開始時に明示するが、各科目の演習が重なるため事前準備をして受講して下さい。 ・演習日にそなえて、技術練習を重ねた上で臨んで下さい。 								
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修「写真でわかる基礎看護技術アドバンス」インターメディカ 系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)								
参考図書	医療情報科学研究所編「看護技術がみえるvol.2」基礎看護技術 メディックメディア 小林 小百合編「根拠と写真で学ぶ看護技術1生活行動を支える援助」中央法規 任 和子編「基礎・臨床看護技術」医学書院 村中 陽子編「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版株式会社								

授業科目	基礎看護技術Ⅲ-1	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	今井 佳代	
								職種	専任教員	
授業の目標・ねらい	<p>診療に伴う技術とは、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が実施する看護技術、救急時の看護技術である。</p> <p>具体的には、酸素療法・吸引・罨法・包帯法や救急法の看護技術をいう。</p> <p>1)対象の治療や処置・救急時の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>1)健康障害を持つ対象を多角的に理解し、さまざまな状況にある対象に対して家族を含めた適切な看護を行うための基礎的知識・技術を学ぶ。</p> <p>2)治療・処置を受ける対象の心理を理解し、診療場面における看護がわかる。</p> <p>3)治療・処置や救急時に安全に看護技術が提供できる基礎的な能力を養う。</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	包帯・救急法	1	救急医療の歴史、急変時の初期対応、一次救命処置				講義	今井		
		2	一次救命処置、創傷管理の基礎知識 止血法				講義	今井		
		3	一次救命処置 演習				演習	今井		
		4	包帯の基礎的知識、包帯法演習				講義・演習	今井		
		5	創傷管理の基礎知識 止血法 一次救命処置テスト				講義	今井		
	呼吸器援助を支援する技術	6	罨法の実際				講義・演習	今井		
		7	酸素療法の援助方法と実践				講義・演習	今井		
		8	排痰ケア				講義	今井		
		9	口腔・気管内吸引				講義・演習	今井		
	経過別・症状別看護	10	症状別看護について				講義	今井		
		11	症状別看護について				GW	今井		
		12	症状別看護について				GW	今井		
		13	症状別看護についての発表				GW	今井		
		14	経過別看護				GW	今井		
		15	経過別看護				講義	今井		
		試験								
単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験・講義・演習への参加態度により総合的に判断する。 課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します									
履修上の注意	他科目の履修状況にあわせての学科進度となっており、講義間の期間が開く場合がある。 心肺蘇生法・AEDを体験する。演習やグループ学習の参加度や態度も評価に含む。									
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる基礎看護技術・臨床看護技術①・② 系統看護学講座 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① 症状別看護過程(照林社)									
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見る看護手順」学習研究社 大岡良枝編「なぜ？がわかる看護技術Lesson」学習研究社 医療情報科学研究所編「看護技術がみえる②」臨床看護後術 メディックメディア 小林 小百合編「根拠と写真で学ぶ看護技術2生活行動を支える援助」中央法規 任 和子編「基礎・臨床看護技術」医学書院 村中 陽子編「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版株式会社									

授業科目	基礎看護技術Ⅲ-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	今井 佳代
								職種	専任教員
授業の目標・ねらい	<p>診療に伴う技術とは、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が実施する看護技術、救急時の看護技術である。</p> <p>具体的には、検査・与薬の看護技術をいう。</p> <p>1)健康障害を持つ対象を多角的に理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術を学ぶ。</p> <p>2)検査・与薬時の対象の心理を理解し、検査・与薬における看護者の役割がわかる。</p> <p>3)検査・与薬における看護技術が安全に提供できる基礎的な能力を養う。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	検査	1	検査における看護師の役割				講義	今井	
		2	穿刺検査における看護師の役割				講義	今井	
		3	血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)				講義	今井	
		4	真空採血管による採血演習				演習	今井	
		5	生体検査、検査・処置の介助				GW	今井	
	与薬時の援助技術	6	与薬における看護師の役割				講義	今井	
		7	おもな与薬方法と剤形、薬物動態				講義	今井	
		8	経口与薬・口腔内与薬				講義	今井	
		9	吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬				講義	今井	
		10	筋肉注射の演習				演習	今井	
		11	皮下注射の演習				演習	今井	
		12	注射法の基礎知識				講義	今井	
		13	点滴静脈内注射演習				演習	今井	
		14	静脈内注射の基礎知識				講義	今井	
		15	輸血について				講義	今井	
		試験							
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験、課題提出、グループ学習・講義・演習への参加態度により総合的に判断する。課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します。								
履修上の注意	採血・皮下注射・筋肉注射・静脈内点滴注射の演習では、針を使用します。十分に学習し安全に配慮しながら演習が行えるよう準備をしてきてください。								
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 写真でわかる基礎看護技術①、②(インターメディカ) 写真でわかる基礎看護技術(インターメディカ) 系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)								
参考図書	福家幸子著、注射・採血ができる[Web動画付](医学書院) 安藤郁子編著、根拠と写真で学ぶ看護技術3検査・治療を支える援助 (中央法規出版)								

授業科目	看護過程	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	川合 陽子
								職種	専任教員
授業の目標・ねらい	看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる思考過程について学ぶ。看護過程の各段階について基本的な考え方と実際を学ぶ。								
授業内容および方法	単元の並び	回	主題				方法	担当者	
		1	看護過程とは 意義・目的、看護過程の5つの構成要素、ヘンダーソン看護論				講義	川合	
		2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方(問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的配慮と価値判断、リフレクション)ジグソー学習				講義演習	川合	
		3	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程 情報収集の視点(常在条件、病理的状态、基本的欲求の状態)基本的欲求に関する情報収集項目				講義	川合	
		4	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析)				講義	川合	
		5	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析)食事				講義演習	川合	
		6	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析)排泄				講義演習	川合	
		7	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析)活動				講義演習	川合	
		8	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析)清潔				講義演習	川合	
		9	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:看護問題リストを活用した看護問題の抽出				講義演習	川合	
		10	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:看護計画				講義	川合	
		11	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:看護計画の実施・評価				講義	川合	
		12	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:患者の全体像 関連図				講義	川合	
		13	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:患者の全体像 看護問題リスト				講義	川合 川合	
		14	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:統合アセスメント				講義	川合	
		15	試験45分間 講義45分間:看護診断				テスト講義	川合	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	ペーパーテスト80点と課題提出点20点の合計100点で評価します。								
履修上の注意	看護の対象となる人がその人らしく生きられるよう支援することが看護の目的の一つです。そして、その看護を具体的に実践するために必要なのは「看護過程」の考え方です。「看護過程」とは対象者その人にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論であるとともに思考過程です。既習の知識を活用しながらその人の個性性にあった看護を実践できるように学習を積み重ねていきましょう。								
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューベルヒロカワ								
参考図書	わかりやすい看護過程 照林社 看護過程がよくわかる本 看護理論を実践に活かす 照林社 症状別看護過程 アセスメント・看護計画がわかる 照林社 看護診断ハンドブック リンダJ.カルペニート 医学書院 NANDA-I看護診断 2018-2020 医学書院 はじめて学ぶ看護過程 医学書院								

授業科目	基礎看護学 看護研究		単 位	1単位	時 間 数	30時間	講 義 時 期	2年次	担 当 者	赤堀 夏海	
									職 種	専任教員	
授業の目 標・ねら い	1. 看護活動における研究の意義を学ぶ。 2. 研究の種類について理解する。 3. 看護研究の一般的プロセスを理解する。 4. ケーススタディをまとめることで、論理的思考、研究的思考、今後の課題を明らかにする。 5. 研究的姿勢について学ぶ。										
授業内容 および方 法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者			
		1	研究・看護研究とは何か 研究疑問を考えよう 帰納法と演繹的推論				講義	赤堀			
		2	研究デザイン・研究方法・文献検索の仕方				講義	赤堀			
		3	文献のクリティーク 研究疑問を明確にしていく方法 シソーラス検索				講義	赤堀			
		4	看護研究個人課題の共有GW				講義	赤堀			
		5	ケーススタディ 論旨の一貫性とは何か				講義	赤堀			
		6	ケーススタディのスケジュール 論文構成・文書入力方法				講義	赤堀			
		7	ケーススタディ準備 文献検索・資料集め				個別対応・個人作業	赤堀			
		8	ケーススタディ準備 文献検索・資料集め				個別対応・個人作業	赤堀			
		9	ケーススタディ 個別指導① 序論				個別対応・個人作業	赤堀			
		10	ケーススタディ 個別指導② 患者紹介・看護の実際				個別対応・個人作業	赤堀			
		11	試験 ケーススタディ個人作業				試験	赤堀			
		12	ケーススタディ 実習担当教員別指導① 考察～結論				個別対応・個人作業	実習担当教員			
		13	ケーススタディ 実習担当教員別指導② 考察～結論				個別対応・個人作業	実習担当教員			
		14	ケーススタディ 実習担当教員別指導③ 考察～結論				個別対応・個人作業	実習担当教員			
		15	ケーススタディ発表				発表会	合同			
単元ごととは順不同です。											
評価方法	課題レポート 20点 筆記試験 30点 ケーススタディ 50点(内論文45点、発表5点)										
履修上の 注意	老年看護学Ⅱ期実習で受け持った事例でケーススタディをまとめ発表するため、老年看護学Ⅱ期実習の 単位を修得していることが前提です。 学習に必要な用紙や印刷代金は自己負担となる。 情報の取扱いや倫理的配慮に欠く行動が合った場合、単位取得できない可能性があります。										
テキスト	足立はるゑ:改訂4版看護研究サポートブック MCメディカ出版2018.8.10 高橋百合子監修:看護学生のためのケース・スタディ 第4版 メヂカルフレンド社2019.2.6										
参考図書	城ヶ端初子:誰でもわかる看護理論 サイオ出版 2015. 10. 25										